

# 第1 吹田市肺がん検診及び結核検診実施状況

## 1 肺がん検診実施状況(R4年1月4日現在)

### (1) 年次別肺がん検診受診者数及び受診率

<b>【受診率の算出方法】</b>												
・算出対象は40～69歳。												
・対象者数(推計人口)=国勢調査において報告された人数－就業者＋農林水産従事者数 (本資料は、平成27年国勢調査をもとに対象者を算出)												
・受診率=(当該年度の受診者数÷対象者数)×100												
<b>【初回受診者について】</b>												
・前年度の受診がある場合は非初回、受診がない場合は初回に分類される。												

表1-1

平成30年度(2018年度)～令和3年度(2021年度)(4～9月)肺がん検診実績  
(40～69歳)

	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	52,030											
受診者数	9889	1473	11,362	9559	1336	10,895	7,973	788	8,761	4,028	297	4,325
受診率	19.0%	2.8%	21.8%	18.4%	2.6%	20.9%	15.3%	1.5%	16.8%	7.7%	0.6%	8.3%
初回受診者数	3,229	773	4,002	3,057	773	3,830	2,737	385	3,122	1,319	165	1,484
初回の割合	32.7%	52.5%	35.2%	32.0%	57.9%	35.2%	34.3%	48.9%	35.6%	32.7%	55.6%	34.3%

表1-2

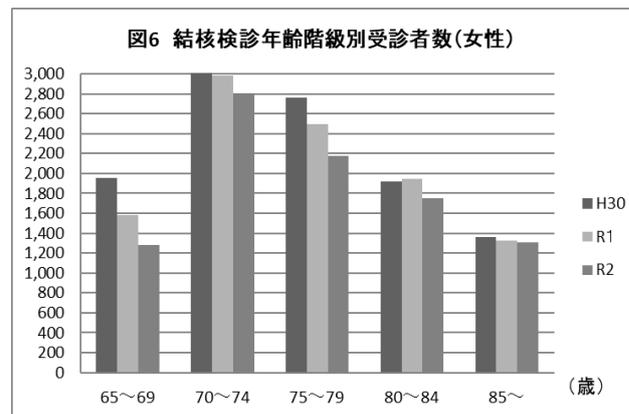
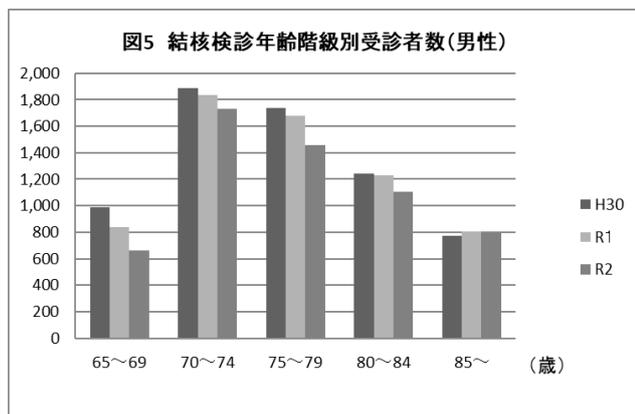
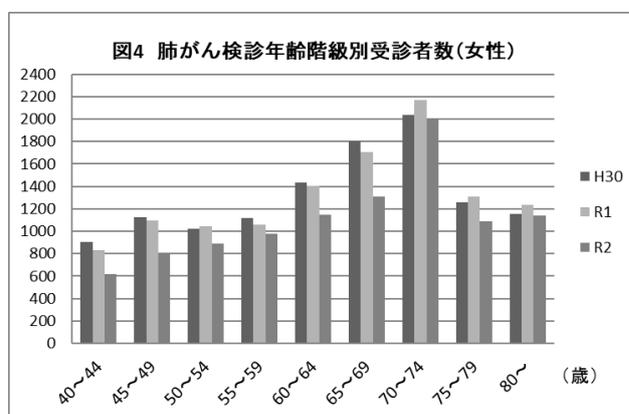
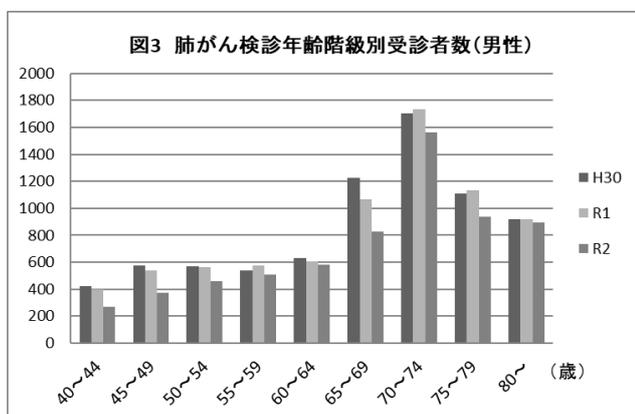
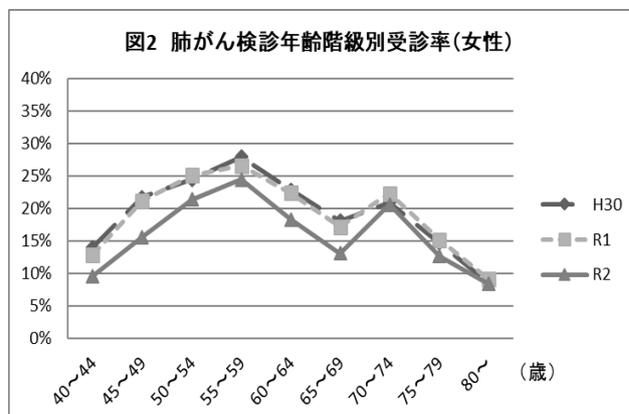
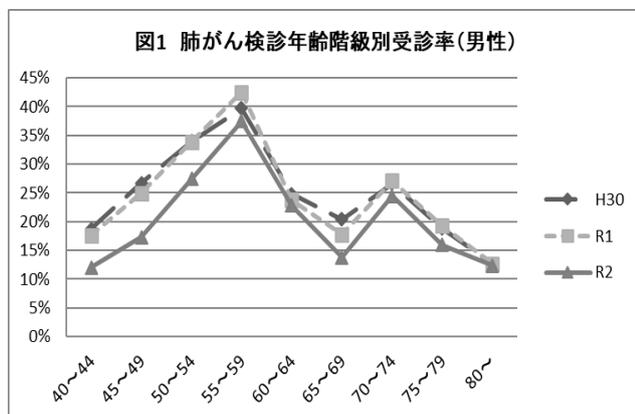
平成30年度(2018年度)～令和3年度(2021年度)(4～9月)肺がん検診実績  
(40歳以上全年齢)

	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度(4～9月)		
	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計	個別	集団	合計
対象者数	103,523											
受診者数	17,663	1,878	19,541	17,686	1,706	19,392	15,338	1,051	16,389	7,802	414	8,216
受診率	17.1%	1.8%	18.9%	17.1%	1.6%	18.7%	14.8%	1.0%	15.8%	7.5%	0.4%	7.9%
初回受診者数	5,702	881	6,583	5,260	871	6,131	4,816	452	5,268	2,293	209	2,502
初回の割合	32.3%	46.9%	33.7%	29.7%	51.1%	31.6%	31.4%	43.0%	32.1%	29.4%	50.5%	30.5%

### 【結果】

- ・令和2年度の40～69歳の受診率は個別検診・集団検診を合わせると16.8%であった。令和元年度と比較すると、4.1ポイント減少している。(表1-1)
- ・令和2年度の40歳以上の全年齢での受診率では、令和元年度より2.9ポイント減少している。(表1-2)

(2) 平成30年度(2018年度)～令和2年度(2020年度)肺がん検診性別・年齢階級別受診者数・受診率及び結核検診性別・年齢階級別受診者数



## 【結果】

### ア 肺がん検診について

- ・各年度の各年齢階級とも、受診率は女性より男性のほうが高くなっている。また、男女ともに 55～59 歳の受診率が最も高い。(図 1、図 2)
- ・40～64 歳においては、受診率の分母となる推計人口が就業者を除いた数となっているため、受診率が高くなる傾向にある。逆に、対象者の多くなる 65 歳以上は、受診率が低くなる傾向がある。
- ・年齢階級別受診者数では、男女とも 65 歳から増えており、男女ともに 70～74 歳が最も多くなっている。また、令和元年と比べた令和 2 年度の受診者数は、全年齢を通して減少傾向にある。(図 3、図 4)

### イ 結核検診について(図 5、図 6)

- ・受診者数は各年齢階級とも男性より女性が多く、男女とも 70～74 歳が最も多くなっている。
- ・受診者数はほとんどの年齢階級で、年々減少傾向にある。

### (3) 年次別要精検者の状況について

#### 【プロセス指標\*の算出方法】

- ・要精検率＝要精検者数/受診者数\*100
- ・精検受診率＝精検受診者数/要精検者数\*100
- ・早期がん割合＝早期がん/がん発見数\*100
- ・がん発見率＝がん発見数/受診者数\*100
- ・陽性反応適中度＝がん発見数/要精検者数\*100

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成 20 年度に各プロセス指標値の基準値(許容値・目標値)を決定し公表している。

#### ＜喀痰検査について＞

国の指針による対象者(50 歳以上で、喫煙指数(1 日の喫煙本数×喫煙年数)600 以上の方)にて集計。

(参考)喀痰細胞診の指導区分

A: 判定不能

B: 異常なし

C: 6か月以内の再検査

D: 要精検(悪性の可能性のある細胞を認めたため、精密検査が必要)

E: ただちに要精検(悪性の腫瘍細胞を認めたため、早急に精密検査が必要)

表 1-3 平成 30 年度～令和 3 年度(4～9 月) 肺がん検診要精検者

(X 線判定:E 喀痰判定:D・E) 内訳(40 歳以上)

	平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度 (4月～9月まで)				許容値	
	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)	X線E判定		喀痰D・E判定	合計 (実数)		
	個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰		個別	集団	喀痰			
受診者数	17,663	1,878	1,226	19,541	17,686	1,706	1,128	19,392	15,338	1,051	924	16,389	7,802	414	442	8,216		
要精検者数	701	66	0	767	724	70	1	795	519	36	0	555	283	13	0	296		
要精検率	4.0%	3.5%	0.0%	3.9%	4.1%	4.1%	0.1%	4.1%	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%	3.6%	3.1%	0.0%	3.6%	3.0%以下	
精検受診者数	636	62	-	698	675	67	1	743	492	33	-	525	247	6	-	253		
精検受診率	90.7%	93.9%	-	91.0%	93.2%	95.7%	100%	93.5%	94.8%	91.7%	-	94.6%	87.3%	46.2%	-	85.5%	70.0%以上	
精検結果内訳	異常なし	254	22	-	276	248	25	0	273	216	11	-	227	105	2	-	107	
	がん	22	1	-	23	17	2	0	19	11	0	-	11	4	0	-	4	
	がん疑い又は未確定	7	0	-	7	1	2	0	3	7	1	-	8	10	0	-	10	
	GGO/GGN	1	0	-	1	7	0	0	7	1	0	-	1	2	0	-	2	
	転移性肺腫瘍	1	0	-	1	1	0	0	1	1	0	-	1	0	0	-	0	
	その他	351	39	-	390	401	38	1	439	256	21	-	277	126	4	-	130	
未受診/未把握	65	4	-	69	49	3	0	52	27	3	-	30	36	7	-	43		
がん発見率	0.12%	0.05%	0.0%	0.12%	0.10%	0.12%	0.00%	0.10%	0.07%	0.00%	0.0%	0.07%	0.05%	0.00%	0.0%	0.05%	0.03%以上	
陽性反応適中度	3.14%	1.52%	0.0%	3.00%	2.35%	2.86%	0%	2.39%	2.12%	0.00%	0.0%	1.98%	1.41%	0.00%	0.0%	1.35%	1.3%以上	

[参考]プロセス指標比較<平成 30 年度>(40 歳以上)

	全国	大阪府
要精検率	2.1%	2.0%
精検受診率	83.3%	84.4%
がん発見率	0.06%	0.08%
陽性反応的中度	2.6%	3.9%

参照: 国立がん研究センター がん情報サービス  
がん統計 「がん検診のプロセス指標」

【結果】(表 1-3)

- ・各年度とも精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は許容値を満たしている。
- ・要精検率については各年度とも許容値の 3%を上回っている。特に令和元年度が 4%を超える結果となっている。

2 肺がん検診(個別検診)のX線判定状況(R4年1月4日現在)

＜X線判定について＞(吹田市の読影体制)

一次読影にて d・e 判定:要精検 b・c判定は二次読影へ

二次読影にて b・c判定:最終判定をb・c判定として一次医療機関に結果返却

二次読影にてd・e判定は、読影委員会(三次読影)へ

※読影委員会では、市立吹田市民病院以外の肺がん検診受診者のうち、二次読影でd・e判定のケースのみ読影。

(参考)X線判定の意味(最終判定は大文字で記載)

b:異常所見を認めない

c:異常所見を認めるが、精査を必要としない

d:異常所見を認めるが、肺がん以外の疾患が考えられる(肺がんは否定)

e:肺がんの疑い ※国の報告に従い、E判定を肺がん検診要精検とする

表 2-1

令和 2 年度肺がん個別検診読影内訳(人)  
受診者数 15,338

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	12,021	b	11,025	B	77 19.5%
c	2,994	c	3,595	C	42 10.6%
d	73	d	24	D	6 1.5%
e	250	e	371	E	270 68.4%
		15,015		395	
				2.6%	
《最終X線判定》		《読影委員会結果》			
B	11,102 72.4%	がん	5		
C	3,637 23.7%	うち早期がん	4		
D	79 0.5%	陽性反応的中度	1.9%		
E	519 3.4%	がん照会中	5		

表 2-2

令和 3 年度(4月～9月)肺がん個別検診  
読影内訳(人) 受診者数 7,802 人

〈一次読影〉		〈二次読影〉		※〈読影委員会〉	
b	6,263	b	5,698	B	45 18.0%
c	1,404	c	1,719	C	37 14.8%
d	19	d	3	D	1 0.4%
e	116	e	247	E	167 66.8%
		7,667		250	
				3.3%	
				がん:0 照会中:10	
《最終X線判定》					
B	5,745 73.6%				
C	1,754 22.5%				
D	20 0.3%				
E	283 3.6%				

【結果】

- ・令和2年度は受診者数 15,338 人のうち、一次読影でb・c判定となった 15,015 人に対して二次読影を実施し、d・e判定となった 395 人に対して三次読影を実施している。そのうちE判定となったのは 270 人で、肺がんと診断されたのは 5 人だった。

### 3 肺がんであったケースの詳細(医療機関照会中を含む) R4年1月4日現在

表 3-1 令和2年度 肺がん個別検診 肺がんであった者(医療機関照会中を含む)

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

表 3-2 令和3年度(4~9月) 肺がん個別検診 肺がんであった者(医療機関照会中を含む)

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

#### 【結果】

令和2年度の肺がん及び肺がん疑いと診断された21人のうち、肺がんの病期分類が確定している者は11人。男性が6人、女性が5人と男性が多い。年齢は、55~59歳が1人、65~69歳が2人、70~74歳が4人、75~79歳が3人、80歳~1人と、70~74歳が最多であった。また、喫煙者は5人であった。

11人のうち、約72.7%の8人が早期がん(I)で発見されている。そのうち初回4人、非初回4人であった。ステージII以上で発見されたがんは3人で、そのうち初回2人であり、非初回は1人であった。

なお、11人のうち、組織型は腺がん8人、扁平上皮がん3人であった。

令和3年度の肺がん及び肺がん疑いと診断された16人のうち肺がんの病期分類が確定している者は2人であり、2人とも男性である。年齢は、65~69歳が1人、80歳~1人で2人とも喫煙者であった。

肺がんの病期分類が確定している2人のうち、1人は非初回で早期がん(I)、もう1人は初回でステージII以上で発見されている。

また2人のうち、組織型は腺がん1人、扁平上皮がん1人であった。

## 4 プロセス指標について

### (1) 一次医療機関ごとのプロセス指標(別紙2)

#### 【結果】

全部で123医療機関実施しており、受診人数にもばらつきがあるため評価は容易ではないが、要精検率が許容値を達成している医療機関は46医療機関、精検受診率が許容値を達成している医療機関が87医療機関(うち、目標値を達成している医療機関は81医療機関)、がん発見率・陽性反応適中度が許容値を達成している医療機関は11医療機関であった。

### (2) 二次読影医のプロセス指標(二次読影医別プロセス指標:別紙3)

表 4 二次読影の判定状況(吹田市全体)

	二次読影数 (人)※1	読影委員会対 象者(人)※2	要精検者数 (人)※3	要精検率	精検受診 者数(人)	精検受診率	がん発見数		がん発見率	陽性反応 適中度	
							早期がん (再掲)	早期がん 割合			
令和2年度	15015	395	270	1.8%	263	97.4%	5	4	80%	0.03%	1.9%

\* 1: 一次読影にてb・cと判定した数 \* 2: 二次読影にてd・eと判定した数

\* 3: 最終読影にてEと判定した数

**【結果】**

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度はいずれも許容値を満たしている。精検受診率については目標値も満たしている。

**5 結核検診実施状況**(R4年1月4日現在)

**表 5 平成 30 年度～令和 3 年度(4～9 月) 結核検診実績**

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (4～9月)
対象者数		67,462			
受診者数		17,652	16,720	15,071	6,364
受診率		26.2%	24.8%	22.3%	9.4%
要 精 検 者 数	結核疑い	52	47	40	12
	肺腫瘍性病変	441	432	337	131
	合計	493	480	377	143
要精検者率		2.8%	2.9%	2.5%	2.2%
精検受診者数		423	423	324	94
精検受診率		85.8%	88.1%	85.9%	65.7%
精 検 結 果 内 訳	異常なし	118	159	105	40
	活動性結核	2	1	1	0
	がん	12	11	13	1
	転移性肺腫瘍	2	0	1	0
	がん疑い又は未確定	4	2	9	2
	その他	280	251	195	51
未受診/未把握		75	56	53	49
がん発見率		0.07%	0.07%	0.09%	0.02%
陽性反応適中度		2.43%	2.29%	3.45%	0.70%

※【受診率の算出方法】・対象者数(推計人口)=国勢調査において報告された65歳以上の人数-就業者+農林水産従事者数(本資料は、平成27年国勢調査をもとに対象者を算出)・受診率=(当該年度の受診者数÷対象者数)×100

**表 6-1 令和 2 年度 結核検診 肺がんであった者(医療機関照会中を含む)**

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

**表 6-2 令和 3 年度(4～9 月) 結核検診 肺がんであった者(医療機関照会中を含む)**

個人情報保護の観点により、詳細な情報は非公開とします。

**【結果】**

結核検診から結核は平成30年度に2人、令和元年度に1人、令和2年度に1人発見され、令和3年度は9月受診者までで0人である。

令和2年度に肺がんと診断された22人のうち、病期が確定している者が12人で、性別は男性が11人、女性が1人、年齢は、70～74歳が3人、75～79歳が5人、80歳以上が4人。肺がんの病期分類が確定している8人のうち、3人が早期がん(I)で発見されている(初回2人、非初回

1人)。ステージⅡ以上で発見されたがんは9人(初回4人、非初回5人)。また、組織型は、腺がん8人、扁平上皮がん2人、小細胞がん2人であった。

令和3年度に肺がんと診断された3人については、現在医療機関照会中である。